



IDF PRESS RELEASE

Belfast, 30th October 2017

IDFプレスリリース

2017年10月30日、ベルファスト発

消費者の信頼を勝ち得るための結束を呼びかけた

世界の酪農乳業指導者

世界の酪農乳業の指導者は消費者の信頼を確保する課題に、業界が一丸となり熱心に取り組むことを呼びかけた。

ベルファストで開かれた国際酪農連盟（IDF）ワールドデーリーサミットにおいて、英国、中国、日本および豪州から参集した酪農乳業界の指導者が消費者と上手にコミュニケーションする重要性を強調した。アンチ・ミルク活動が活発化する中で、消費者は不純物のない乳製品、良好な品質の乳製品の確保を求めている。

英国の酪農乳業団体「デーリーUK」会長でガンビアチーズ Gambia Cheese 社長ポール・バーノン（Paul Vernon）氏は、「過去30年間で世界の酪農乳業界は大きく変わりました。同時に消費者とコミュニケーションする手法も変わりました。乳はスーパーフードです。私達の伝えたい声が消費者に大きく聞こえ、しかも明確に届くことが肝心です。消費者は毎日のように間違った情報に晒されています。」と語った。



アーラUK社長のトーマス・ピートランジェリ (Tomas Pietrangeli) 氏は、「世界の人々が栄養豊かな食品を求めるとき、乳および乳製品は重要な解決策になるべきです。しかし乳に関して人騒がせな作り話が横行し酪農乳業界は危機に陥る可能性があります。英国や欧州では、アンチ・ミルク活動という現実の脅威を受けています。」



「私たちの業界には明るい未来が開けています。私たちは武器も弾薬ももっています。自分達の強みを生かすことです。乳の見えるイメージを変えること、若い女性に照準を絞り、乳および乳製品が偉大な食品の1つであるとわかってもらうことです。現代人の生活に溶け込んでいる乳および乳製品のメッセージを明確に伝えることが重要です。」

「乳製品の良さを後押しする時は今でしょう。アンチ・ミルクによる作り話と根拠のない苦情に立ち向かうのは今でしょう。」と述べた。

中国、伊利乳業社長ゼン・ジアンキュー (Zheng Jianqiu) 氏は、「新しく興隆した中国の酪農乳業は、サプライチェーンの確立と消費者との関係構築のために懸命に活動しています。我が社のビジョンは、最も信頼される栄養豊かな乳および乳製品のサプライヤーになることです。酪農乳業界の声が社会全体に届くことが大切です。」と語った。



日本から登壇した株式会社明治社長の川村和夫氏は「これからは、業界としてサプライヤー、消費者、お客様との間で新しいコミュニケーション手法を全力で探索することが必須です。将来起こりうる危機を回避するには、世界の同業者が今よりも緊密に協働し、綿密な計画を立てた上で行動することが極めて重要です。」と述べた。



豪州から登壇したベガ・チーズ Bega Cheese 会長のバリー・アービン (Barry Irvin) 氏は、「利害関係者とのあらゆるコミュニケーションにおいて透明性と誠実さが土台になります。」と述べた。



最後に IDF 会長のジュディス・ブライアンス氏が「グローバルな業界のメッセージは、まったく明解です。我が業界としては、乳の栄養面の利点を取り上げてアンチ・ミルク団体が標榜する作り話に対抗する覚悟を持たなければなりません。大きな課題ですが、乗り越えられる壁ではあります。」と述べた。

翻訳：J I D F 事務局

編者注: 仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。